

令和7年度 江戸川区立本一色小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○考える子 ○やさしい子 ○たくましい子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○基礎・基本の定着を確実にし、確かな学力を身に付けられる学校。 ○教師一人一人がやりがいを感じ、情熱をもって教育活動を実践できる学校。 ○家庭・地域と協力し、心豊かな児童が育つ学校。 ○学校や地域の歴史、環境を大切にし、故郷として誇りがもてる学校。
前年度までの本校の現状	成果	○友だちの話を最後まで聞く児童が増えた。他者意識の姿勢が見られるようになった。 ○授業で考える場面を工夫することにより、思考力・表現力を伸ばした。	課題 ○引き続き、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○自分の考えを適切な言葉で話したり、相手の話を丁寧に聞いたりする姿勢をさらに身につけさせる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施 ・「本小スタンダード」の定着	・放課後補習教室への登録率100% ・「本小スタンダード」が身につけている児童を90%以上にする	80%		B	今年度は4年生以上に学年を絞り、実施している。講師とも連携を取り、児童の学力向上につなげたい。	B	・業者と担任との連携は時間がかかりづらい。 ・家庭学習の習慣が必要。					
	○読書科の更なる充実	・図書館を使った調べる学習コンクールの取り組み	・応募率を3年生以上は100%、1、2年生は20%以上	90%		A	3年生以上は、ほぼ全員が提出することができた。1、2年生は10%弱であった。	A	・図書館に実際に足を運んで、自分でたどり着くのがいい ・自分で課題を見つけて深掘するのがいい。 ・コンビがない頃、店の人とプールについて プールは暑さ対策で実施できないことが多くなっている。プールのある学校とない学校がある。					
	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・毎週、朝15分間の運動タイム実施 ・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が体力を高めようとしていると回答 ・児童アンケートの結果で、80%以上の児童が縄跳びに楽しく取り組むことができたという回答	80%	100%	B	週一回の運動タイムは、暑さ対策もあったが、場を工夫して実施できている。	B						
実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	100%		A	児童についての情報交換を密に行い、指導に活かせるようにしている。	A	・（日本語指導は一之江小、ことばときこえの教室は大杉小との連携はよいが）情緒固定級について、巡回指導「いぶき」への判定を難しいだろう					
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルーム（ほっとルーム）の保護者への理解啓発	・年度初め、年度終わりの全学年の保護者会でエンカレッジルーム（ほっとルーム）を紹介	100%		A	今年度からエンカレッジサポーターを任用した。児童の登校や学習支援に活用している。	A	・どういった人が担っているか？（元介助員） ・どのように実施しているか？（基本的に教室で児童と共に過ごしている）					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施	・各学期1回以上の実施	100%		A	鹿本学園との交流や副籍校交流を各学期1回以上計画している。	A	・鹿本育成室は閉鎖される。子供のホスピスができるとの情報もある。地域として受け入れる体制が必要ではないか。					
不登校・充い実じめ	○豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が係・当番活動をしっかりやっていると回答	80%		B	約80%の児童がしっかりとできているので、今後も指導を重ねていく。	B	・不登校（特別な支援を要する児童）は増えているように感じる。 ・いじめは受け取り側の問題もある。					
	○OL-Gateの活用	・L-Gateを活用し、児童の心の変化や悩みへの柔軟な対応	・児童アンケートの結果で、90%以上の児童が学校が楽しいと回答	90%		A	今年度から始まったL-Gateの児童の声を大切に、より過ごしやすい学級集団をつくっていく。	A						

対応の	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、 スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのSC、SSW連携率 100%	100%	A	SC、SSWとは連携を密に 取っている。今後もさらに強化 していく。	A	・不登校（特別な支援を要する児童）は 増えているように感じる。 ・いじめは受け取り側の問題もある。						
学校（園）の 開かれた 地域社会に の実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・こまめに更新しタイムリーな情報を伝える	90%	A	今後もホームページをこまめに更新し、タイムリーな情報を伝えられるように努めていく。	A							
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・各学期に1回実施	90%	A	学校評議員会でいただいた意見を教育活動に活かしていく。	A	・PTAのありかた・活動について地区としては縮小傾向にあるが、残すべきところもあるかもしれないが、どのように誰が担うのか。						
教育の 特色ある 展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・平均退勤時刻を19時までに収める	80%	B	定時退勤日は毎月設定しているが、定着はまだ完全ではない。	B							
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・全教員年3回の授業公開	100%	A	授業公開を2回実施済みである。	A							
	○異学年交流による思いやりの心の醸成	・異学年集団「あすなろ班」活動を年10回以上実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上が人が困っているときは、すすんで助けていると回答	90%	A	あすなろ活動は内容を工夫し、高学年児童を中心に運営できている。その中で、児童の友だちを思う気持ちも育ててきている。	A							